

- 2) 安田公治 (青森公立大学・神戸大学)・衣笠智子 (神戸大学)・衛藤彬史 (兵庫県立人と自然の博物館)「農家の健康状況が地域農業に与える影響についての計量的研究—兵庫県養父市における農家アンケート調査の事例—」
- 3) 熊谷文枝 (杏林大学)「人口減少と地域力—消滅可能性自治体の事例から—」

企画セッション④「人口からみた近代移行期の日本」

組織者：研究企画委員会

座長：黒須里美 (麗澤大学)

討論者：斎藤修 (一橋大学)・鈴木透 (ソウル大学)

- 1) 鬼頭宏 (上智大学)「移行期における出生率の動向」
- 2) 逢見憲一 (国立保健医療科学院)「近代移行期から第二次世界大戦前 (中) 後の死亡・死因研究に関する展望」
- 3) 高島正憲 (関西学院大学)「近代移行期における都市人口」
- 4) 平井晶子 (神戸大学)「近代移行期の世帯と家族」

自由論題 D-3「地域人口」

座長：高橋眞一 (新潟産業大学)

- 1) 井上希 (国立社会保障・人口問題研究所)「小地域データを用いた市町村合併による過疎地域への影響の検証」
- 2) 鎌田健司・小池司朗・菅桂太 (国立社会保障・人口問題研究所)・山内昌和 (早稲田大学)「都道府県別にみた人口増加率の要因分解：1950-2015年」
- 3) 丸山洋平 (札幌市立大学)「地域人口推計における Child Woman Ratio の分母年齢設定」

(岩澤 美帆 記)

第5回アジア人口学会大会

2021年8月3日(火)～5日(木)、第5回アジア人口学会大会が、インドネシア国家人口家族計画委員会(BKKBN)、ガジャマダ大学との共催で、オンライン開催された。昨年計画されていたものが新型コロナウイルス感染症流行により延期されたものであるが、結果的にインドネシアで一番感染が拡大し重症化している時期に開催されることとなった。しかしながら、会議は滞りなく粛々と開催された。

会議は3日にわたり、2つの全体セッション、30の平行セッション、ポスター又は事前録画セッション、開会式・閉会式から構成され、アジア太平洋地域各国および欧米から多くの参加があった。セッションは、定番である出生・リプロダクティブヘルス、健康・死亡、国内・国際移動、人口データ・分析手法に関するものに付け加え、幸福、生活の質、労働力、環境に関するものもあり、高齢化に関するセッションも多かった。

今大会は、ZOOM形式がウェビナーでなくミーティング形式で設定、つまり、報告者のみならず参加者も直接コメントや発言できる形式であり、活発な議論が行われた。また、これまでのアジア人口学会大会では、報告者が出張できないために欠席する事態が多かったが、オンラインで行うことで、経済的な負担を抑え、多くの人が参加できるようになったことは進歩である。今後新型コロナウイルス感染症が終息したとしても、ハイブリッドで会議が開催されることが期待される。(林 玲子 記)